

瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報(5~6月)

-平成16年4月27日~4月28日において開催された第35回瀬戸内海東部カタクチイワシ等漁況予報会議において、別表の水産関係機関が検討した結果を独立行政法人水産総合研究センター瀬戸内海区水産研究所がとりまとめた結果-

今後の見通し(2004年5~6月)

シラスは好漁であった2003年並みかやや上回る。

紀伊水道東部(和歌山県側)では好漁であった2003年を上回る。

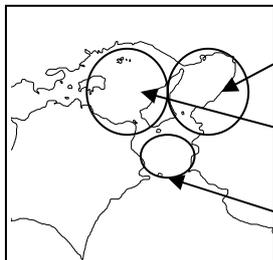
紀伊水道西部(徳島県側)では2003年を下回るものの、平年を上回る。

大阪湾では好漁であった2003年並み。

播磨灘東部(兵庫県側)では好漁であった2003年並みかやや上回る。

播磨灘南西部(香川県側)では平年並みであった2003年をやや上回る。

播磨灘北西部(岡山県側)では好漁であった2003年並みかやや上回る。



シラス 大阪湾では好漁であった2003年並み。

シラス 播磨灘東部では好漁であった2003年並みかやや上回る。
播磨灘南西部では平年並みであった2003年をやや上回る。

シラス 播磨灘北西部では好漁であった2003年並みかやや上回る。

シラス 紀伊水道東部では好漁であった2003年を大きく上回る。

紀伊水道西部では2003年を下回るものの、平年を上回る。

1. 本予報は水産庁のホームページ(<http://www.jfa.maff.go.jp/>)、水産総合研究センターにおける我が国周辺水域資源調査等推進対策委託事業のホームページ(<http://abchan.job.affrc.go.jp/>)及び瀬戸内海区水産研究所のホームページ(<http://www.nnf.affrc.go.jp/>)に掲載されます。

2. 本予報の内容等に関する問い合わせ先は、以下のとおりです。

水産庁増殖推進部漁場資源課沿岸資源班 担当: 青木、宮崎(潤)

住所: 〒100-8907 東京都千代田区霞ヶ関1-2-1

電話: 03-3502-8111(内線7376) ファックス: 03-3592-0759

電子メール: kyunta_miyazaki@nm.maff.go.jp

水産総合研究センター瀬戸内海区研究所企画連絡室

住所: 〒739-0452 広島県佐伯郡大野町丸石2-17-5

電話: 0829-55-3409 ファックス: 0829-54-1216

電子メール: kiren@nnf.affrc.go.jp

参画機関

和歌山県農林水産総合技術センター 水産試験場

大阪府立水産試験場

兵庫県立農林水産技術総合センター 水産技術センター

岡山県水産試験場

香川県水産試験場

徳島県立農林水産総合技術センター 水産研究所

中央水産研究所 資源評価部

瀬戸内海区水産研究所 生産環境部

水産庁 増殖推進部 漁場資源課

瀬戸内海東部カタクチイワシ漁況予報

1. 今後の見通し(2004年5～6月)

シラス(本年春季発生群)

紀伊水道東部(和歌山県側)では好漁であった2003年を上回る。

紀伊水道西部(徳島県側)では2003年を下回るものの、平年を上回る。

大阪湾では好漁であった2003年並み。

播磨灘東部(兵庫県側)では好漁であった2003年並みかやや上回る。

播磨灘南西部(香川県側)では平年並みであった2003年をやや上回る。

播磨灘北西部(岡山県側)では好漁であった2003年並みかやや上回る。

平年は1993～2002年とした。

紀伊水道、大阪湾、播磨灘: 標本漁協の漁獲量を指標とした(図1～3)。

2. 漁況の経過(2003年4月～2004年4月)および見通しについての説明

(1) シラスの漁況

紀伊水道東部(和歌山県側)では2003年4～6月は2002年および平年を大きく上回る好漁であったが、7月はほぼ平年並みであった。8月下旬～10月に紀伊水道北部から中央部で好漁となり、11月以降も平年を上回った。2004年の漁は4月8日に始まり、好漁であった2003年を上回る漁獲で推移しており、漁場は紀伊水道内域に広く形成されている。

紀伊水道西部(徳島県側)では2003年4～6月の春漁期は、平年の2.0倍と好漁であった。7～9月の漁獲は平年並みであった。10月に平年の2.0倍の漁があったため、秋漁(9～11月)全体で平年の1.4倍の漁獲量を記録した。期間を通じてみると、春漁の好漁により、平年の1.5倍の漁であった。

紀伊水道北部(兵庫県側)では外海発生群の流入により2003年4～6月にかけてまとまった漁があった。7～9月には減少したが10月には漁獲量が増加した。年間漁獲量は2002年より減少したが、近年では高い水準であった。2004年は4月上旬から始まり、好漁になっている。

大阪湾では2003年4月22日から一斉に出漁した。外海発生群の流入により好漁となった。5月は4月から引き続き好漁であったが、6月に入ると漁獲が減少した。6月下旬～7月上旬には比較的大型の個体が主体であり、新規加入してきた個体が少なくなっていた。2002年に不漁であった7～8月にも漁獲がみられ、8月までは2002年を上回る漁獲があった。しかし、9月にはほとんど漁獲がなくなり、10月以降若干の漁はみられるものの低調に推移した。

播磨灘東部(兵庫県側)では5月下旬から漁が始まったが、当初は外海からの流入群による漁場が形成された灘南部を中心に操業が行われた。6月後半には内海発生群の加入がみられたため、主に地先漁場で操業していた。7月以降は内海発生群の新たな加入も少なく、10月に一時増加した以外は低調な漁模様で推移し、そのまま12月下旬に終漁した。

播磨灘南西部(香川県側)では2003年6月1日から漁が始まったが、漁期当初の漁獲は低調だった2002年を上回ったものの、7～9月の漁獲は極めて低調であった。

10月に入って漁は一時好転し2002年並みの漁があったが、その後は低調に推移して11月半ばで終漁した。年間漁獲量は、2002年を下回った。

播磨灘北西部(岡山県側)を漁場とするパッチ網標本漁船の漁業日誌によると2003年5月17日か

ら漁が始まった。5～7月の春夏季漁では延べ43トンの漁獲があった(5月が39トンを占めていた)。10月には20トンの漁獲があり、2002年と同程度の漁獲があった。

(2) 外海域での産卵量等

薩南～常磐南部海域における2004年2月のカタクチイワシ産卵量は2003年並みか前年をやや下回る水準であった。

和歌山県農林水産総合技術センター水産試験場が行った2004年3月の紀伊水道外域での定線調査では卵・稚仔密度は2003年3月よりも少なかったが平年は上回った。2004年4月は2003年、平年を大きく上回る卵密度であった。

徳島県立農林水産総合技術センター水産研究所が行った定線調査では、2004年3月の紀伊水道外域におけるカタクチイワシの卵・稚仔密度は2003年、平年値を大きく上回る水準であった。

(3) 今後の見通しの説明

シラス(本年春季発生群)

黒潮は4月には潮岬で接岸した流路をとっている。また、九州南東沖に形成されている小蛇行が4～5月に発達して停滞し、6月以降四国沖を東進すると予測されており(平成15年度第3回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報)、来遊環境(紀伊水道への暖水波及)は良好であり、継続的な漁が期待できる。3～4月のカタクチイワシ卵密度も高く紀伊水道への来遊がある程度期待できる。

大阪湾、播磨灘東部(兵庫県側)、播磨灘南西部(香川県側)で漁獲される春季シラス漁は紀伊水道および外海域でのシラス現存量と来遊環境に依存する。外海域でのカタクチイワシ産卵情報によると、大阪湾・播磨灘へのシラスの補給源である紀伊水道外海域で早春季に卵、仔魚とも多く出現していた。また黒潮は現在、室戸岬、潮岬とも接岸状態にあり、来遊環境としても比較的良好な状況にある。4月26日付けの和歌山県の情報によれば、紀伊水道内で行われているシラスパッチ網は好漁で推移しており、特に紀伊水道北部で多い模様であり、大阪湾南部への外海系水の進入も認められる。春季シラス資源は大阪湾内の漁場にすでに多数存在していると考えられる。

播磨灘北西部(岡山県側)では2003年秋季にも2002年秋季と同じく産卵がみられ、秋シラスが長期にわたり滞留した。それらのシラスは2004年4月には親魚となり比較的大規模に産卵している。

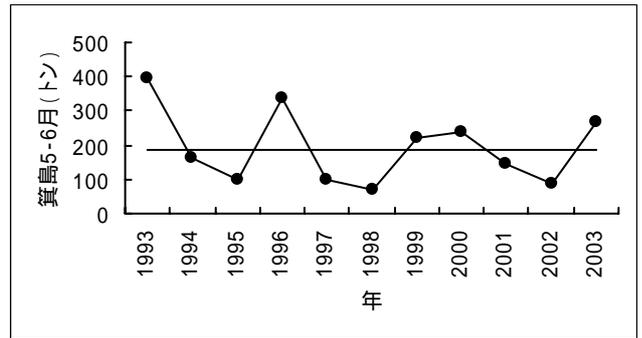
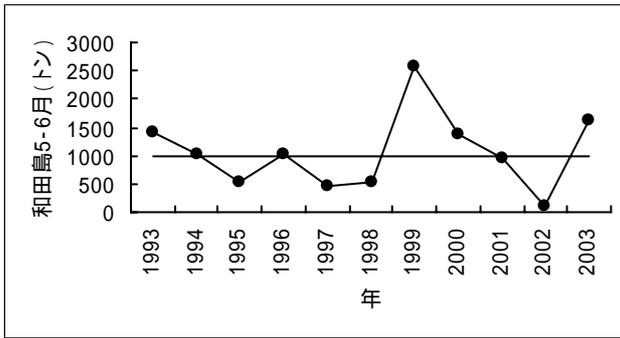


図1 紀伊水道東部（和歌山県側：右図）および紀伊水道西部（徳島県側：左図）の標本漁協におけるシラス漁獲量、実線は平年値を示す

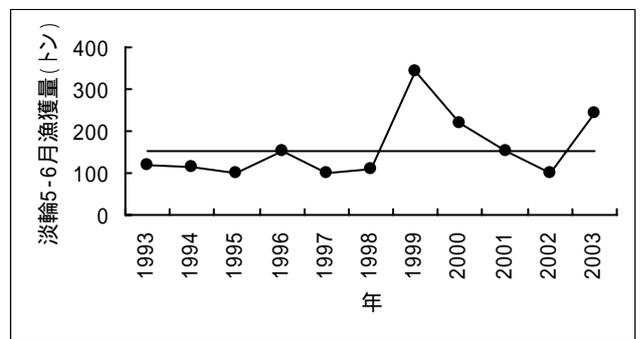
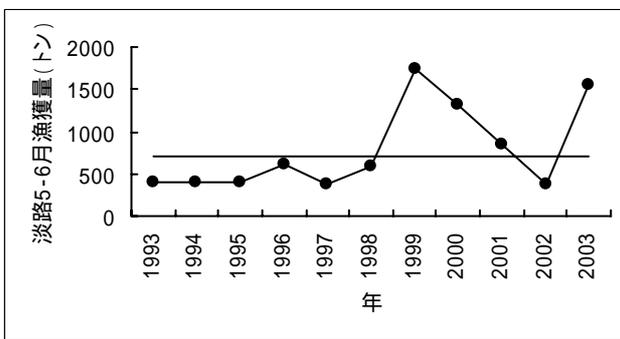


図2 大阪湾東部（大阪府側：右図）および大阪湾西部（兵庫県側：左図）の標本漁協におけるシラス漁獲量、実線は平年値を示す

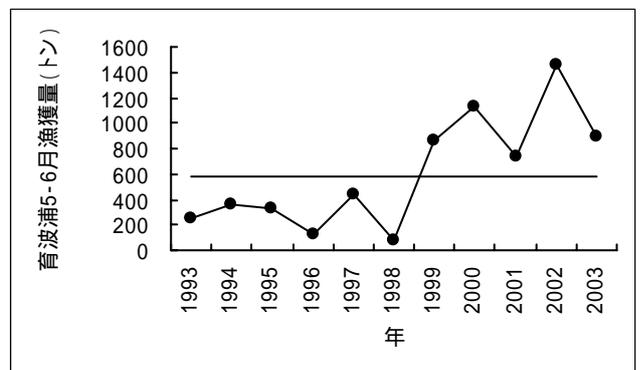
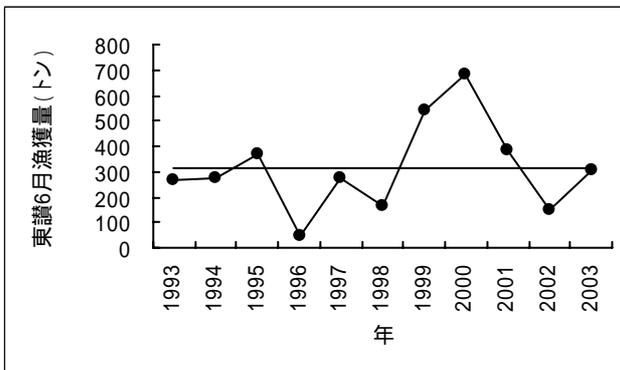


図3 播磨灘東部（兵庫県側：右図）および播磨灘北西部（香川県側：左図）の標本漁協におけるシラス漁獲量、実線は平年値を示す